

ランチョンセミナーのご案内

ランチョンセミナーの整理券を下記の時間帯に配布いたします。
なお、数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。

配布場所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター2階・アトリウム

配布時間：15日(木)～16日(金) 8時30分～11時（無くなり次第終了）

ランチョンセミナー1

共催：テラリコン/KDDI

日時：11月15日(木) 12時10分～13時10分

会場：C会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター3階・中会議室301）

座長：吉村 宣彦（新潟大学歯学総合研究科 分子細胞医学専攻遺伝子制御講座
腫瘍放射線医学分野(放射線医学教室) 准教授）

演題名：テラリコン・KDDI社共同による、クラウド型「リアルタイム3D医用画像ソリューション」の使用経験

演者：富田 博信（埼玉県済生会川口総合病院 放射線技術科 技師長）

2012年8月3日よりソリューション提供を開始した、国内医療業界で初めてとなる、クラウド上での3D医用画像のリアルタイムな処理・閲覧システムについて、実証実験を実施された済生会川口総合病院様より使用経験をご紹介します。

本ソリューションは、テラリコンが提供する大規模配信型3D医用画像ソリューションを「KDDIクラウドプラットフォームサービス」上に構築し、高速かつセキュアに、PCやタブレット、スマートフォン等の様々なデバイスから利用可能である。

本ソリューションは、次のような特長を有する。

1. クラウド型サービスのため、高額な医療機器の初期投資コストや管理コストが不要
2. システムバージョンアップ等の運用保守がプラットフォーム上で対応可能となり、運用保守の作業負担を軽減
3. 高品質かつセキュアなネットワーク回線を経由し、専用設備を利用したプライベート型クラウドプラットフォームにアクセスが可能
4. 病院外からも、様々なデバイスから3D医用画像の閲覧が可能

ランチョンセミナー2

共催：株式会社大黒

日時：11月15日(木) 12時10分～13時10分

会場：E会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター2階・中会議室201）

テーマ：長崎大学物流管理システム報告

座長：本多 正幸（長崎大学大学院 歯薬学総合研究科）

演題名①：看護部からみた物流システムの評価

演者①：岡田 みずほ（長崎大学病院 医療情報部・看護部）

演題名②：物流システム運用の課題と改善

演者②：徳田 真一（株式会社大黒）

長崎大学病院では、2008年6月より新病棟の開院に合わせて、総合病院情報システムをリプレースした。

この更新では、物流管理システムを柱の一つとして、物流管理の効率化、管理データの精度向上を目指して、(株)大黒の管理システムを導入した。今回は、看護職員の調査を通して、看護部から見た評価、および運用の課題とその改善策について報告する。概要は以下のとおりである。

- ・ 長崎大学では、医療材料の管理徹底の為商品ごとにユニークコードを付与して、使用患者、部署、ロット番号、滅菌期限および消費量を把握し、医療材料毎に添付されたユニークコード付きラベルの回収により、在庫数量、各部署への補充、定数管理による発注

の一連業務を管理している。

- ・運用から4年を経過、看護部門での評価とニーズについてアンケートを実施した。アンケート結果からラベル回収、材料発注、定数管理、商品情報提供等について分析を行い、次期病院システムに改善を含む物流システムについて考察をおこなった。
- ・また長崎大学では、電子カルテ、医事会計、物流で使用されている医療材料について、病院統一マスタ管理システムを構築し、新規採用材料マスタの即時発行を可能にした。
- ・さらに医療材料の約60%を使用する手術部門での材料管理として、術式別医療材料をセット化しロスや必要材料を把握しセット内容の随時更新により、作業時間の短縮化と確実な材料チェックを実施している。
- ・次期システムでは、術式別医療材料セットと同様にクリニカルパスや治療計画でのセット化についても検討を進めたい。

ランチョンセミナー3

共催：アライドテレシス株式会社

日時：11月15日(木) 12時10分～13時10分

会場：F会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェブマーケット特設1）

演題名：初心者向け病院ネットワークの基礎知識 ークラウド時代の院内LANー

演者：小田 直之（アライドテレシス株式会社

上級執行役員 ビジネスエンジニアリング本部長）

病院では様々な情報システムが稼動していますが、統合された院内LAN上ですべて運用が可能になり、経済性だけでなくシステム間の連携により利便性も大きく向上しました。また、今後のクラウド技術の進展で、院内LANの整備がより必要になっています。

反面、院内LANの停止は病院運営自体に関わる問題です。このため、病院機能評価はVer.6.0から情報システム管理に関する項目が新設され、情報システムのインフラとしてのネットワークの重要性の認識が高まっています。

本セミナーはこれまで好評を頂いたセミナーをより平易にし、病院ネットワーク設計・構築・運用のポイントを前提知識なしに理解出来る内容としました。院内LAN入門として構築の落とし穴やクラウド連携の実例、次世代ナースコールについても紹介します。

ランチョンセミナー4

共催：株式会社ネットマークス

日時：11月15日(木) 12時10分～13時10分

会場：G会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェブマーケット特設2）

テーマ：医療情報システムの仮想化・クラウド化におけるネットワークの設計

Design of the network in the virtualization and the cloud of the medical information system

座長：森本 英作（株式会社ネットマークス 営業第一本部第三営業統括部 統括部長）

演者①：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部 副部長/准教授、
総合情報基盤センター 副センター長 情報セキュリティ部門長）

演者②：若村 友行（シスコシステムズ合同会社 パブリックセクター事業
ヘルスケア営業部 シニアアカウントマネージャ）

演者③：清水 昇（株式会社ネットマークス 第三営業統括部 第三営業部 部長）

デジタル情報の高度化とICT技術の浸透により、医学・医療現場においてもICT化が進んでいる。また昨今は、スマートデバイスといった新たなICTツールの出現により「いつでも、どこでも、必要な情報を利用する」といったユビキタス環境による医療情報の活用と効果に期待が高まってきている。

このような中で、仮想化・クラウド化が医療情報システムの環境を大きく変える技術として注目されている。

本セミナーでは、実際の医療情報システムの仮想化・クラウド化の実例を紹介するとともに、この中でのネットワークの役割の大きな変化とその設計方法を紹介いただく。

ランチョンセミナー５

共催：富士フィルムメディカル株式会社

日時：11月15日(木) 12時10分～13時10分

会場：I会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェーブマーケット特設4）

演題名：クラウド型地域医療連携サービス『C@RNA connect』の導入実績・効果

演者：舟橋 毅（富士フィルム株式会社 メディカルシステム事業部）

クラウド型医療連携サービス『C@RNA connect』は、約90病院、1,400超のクリニックに導入・ご利用いただいている。本セミナーでは、まず C@RNA connect の新しい機能、院内システムや他社システムとの機能連携の状況を報告する。次に前方連携、後方連携業務への応用や具体的な業務支援についても提案し、さらに稼働実例をベースに連携を定着させるためのポイントや連携実務への貢献内容を紹介する。

ランチョンセミナー６

共催：日本オラクル株式会社

日時：11月16日(金) 12時20分～13時20分

会場：A会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター2階・スノーホール）

演題名：愛仁会グループにおける文書管理システム活用の実際と今後の展望

演者①：井内 伸一（社会医療法人愛仁会 愛仁会本部 医療情報部 課長）

病院における文書管理といえば、同意書などの診療現場での紙文書の電子保存が中心である。しかし、紙文書だけではなく電子文書に関しても個人の端末や共有ストレージに散在しているのが実態である。今後はこれら電子文書についても管理方法を考えなければならない。診療現場や管理部門、その他の様々な部署において電子文書を作成する機会は極めて多く、作成した資料の多くは散在しているのが実情である。個人で管理している文書には様々なノウハウが蓄積されており、これらを一元管理することで個人の暗黙知を組織の形式知へと還元するナレッジマネジメントを実現することができる。今回は、経営資料の管理とナレッジマネジメント実現に向けた取り組みの一例を紹介する。

演者②：下條 雅樹（日本オラクル株式会社 公共営業統括本部 担当シニアマネージャー）

医療情報の二次利活用が命題となっている今、検索対象は数値データにとどまることなく、電子カルテを含めた院内に存在する全てのテキスト情報、およびソーシャルメディアに散在しているテキストにまで及んでいる。この「Big Data」に対応する為には、既知のビジネスインテリジェンス領域だけではカバーできない。「Big Data」に対応し、構造化、半構造化、非構造化の各データの横断的な探索と分析を担う「Oracle Endeca Information Discovery」を使用し、医療分野におけるデモンストレーションを本邦初公開する。

ランチョンセミナー７

共催：インターシステムズジャパン株式会社

日時：11月16日(金) 12時20分～13時20分

会場：B会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター4階・マリンホール）

座長：植松 裕史（インターシステムズジャパン株式会社 代表取締役社長）

演題名：スマートフォン対応電子カルテの開発と運用

演者：荒木 賢二（宮崎大学医学部附属病院 医療情報部）

宮崎大学病院では、2011年5月にスマートフォン対応電子カルテ（WATATUMI）を稼働させ、ベッドサイド看護業務をモバイル端末（GalaxyS230台）に置き換えた。

2012年5月には、医師全員に端末（GalaxySIII350台）を配布し、医師のユビキタス環境構築を図った。

WATATUMI は、Android 上で稼働するモバイル用電子カルテである。PC 版電子カルテ（IZANAMI）と同じデータベース（Cache）にアクセスする。稼働している機能は、リストバンドバーコード読み取りによる患者認証、全オーダーのステータス変更（実施入力等）、観察項目の参照と入力、検歴参照、全カルテ文書参照・承認、指示簿参照、画像参照、写真撮影、顔写真撮影、コミュニケーション機能、等である。ユビキタス環境構築により、情報共有の拡大、迅速化、高度化、さらに、医療の質の向上と効率化につながると考えられる。

ランチョンセミナー 8

共催:Orion Health株式会社

日 時：11月16日(金) 12時20分～13時20分

会 場：E会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター2階・中会議室 201）

座 長：田中 博（東京医科歯科大学 難治疾患研究所（生命情報学）教授、

地域医療福祉情報連携協議会 会長）

演題名：グローバルの EHR 導入状況と期待される効果

演 者：Chris Hobson (Orion Health Limited, CMO(Chief Medical Officer))

Orion Health は医療システムの統合技術に特化しており、現在世界 30 か国に 1,000 以上の顧客を持っています。また、30 万人以上の臨床ユーザー（医療者）を有する、22 の大規模 EHR のプロジェクトに、ソフトウェア及びコンサルティング・導入サービスを提供しています。

弊社が関わってきた多くの大規模 EHR プロジェクトのなかでも、カナダのアルバータ州における netCare と名付けられている EHR は、先駆的な存在であり、その成功が後にカナダ Health Infoway の施策にも大きく影響を及ぼしています。またその成果は、米国各州、英国、スペイン及びシンガポール等に展開されています。EHR は既に第二フェーズに入っており、各国では糖尿病をはじめとした慢性病疾患のケース・マネージメントに対する取り組みが本格化し、医療施設間での Clinical Pathways の共有が EHR システムにより実現されています。

今回の講演では、各国での EHR の導入状況をご紹介するとともに、弊社 HER のアーキテクチャーとケース。マネージメントを含むソリューションのアウトラインをご紹介します。また、外部に報告されている EHR の効果事例についても触れたいと考えています。

ランチョンセミナー 9

共催：テクマトリックス株式会社
礪川システムデザイン事務所

日 時：11月16日(金) 12時20分～13時20分

会 場：F会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェブマーケット特設 1）

演題名①：これからの病院情報システムの構築にむけての展望

演者①：佐々木康夫（岩手県立中央病院 副院長）

病院の情報システムは電子カルテのみではなく、もっと多様である。

これからは、利便性向上のための各種情報システムの統合化、必要な利用系に合わせたシステムの開発、電子カルテに端末以外のデバイスを活用したワークフローの改善などによって、情報化のメリットを生かした医療を推進する必要がある。今回は当院で開発した新しいカンファランスシステムの導入や、タブレット端末の利用系についてご紹介したい。

演題名②：医療情報クラウド「NOBORI」が実現する新しい PACS の形

演者②：依田 佳久（テクマトリックス株式会社 取締役）

近年、医療情報分野においても様々なシステムのクラウド化が進んでいる。その中で特に PACS システムに関しては、今年度より各企業がクラウド化した製品を発表しており、急速な進化を始めている。

しかし一方で情報の外部保管に対する病院の不安は完全に払拭されているとは言えない。これらの懸案事項に対し、テクマトリックスの医療情報クラウド「NOBORI」がどのようにこれらの問題を解決しているかについて説明する。

ランチョンセミナー 10

共催：日本マイクロソフト株式会社

日 時：11月16日(金) 12時20分～13時20分

会 場：G会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェブマーケット特設 2）

演題名：医療機関におけるデータの利活用及び事例紹介

座 長：遠山 仁啓（日本マイクロソフト株式会社）

演 者：皆川 昇司（鳥取県立中央病院医療情報管理室）

近年、院内に流れる医療データ量は増加の一途を辿っています。データ管理基盤は、処理されたデータを単に保管するのではなく、蓄積された膨大なデータを誰でも探索できる基盤を提供し、現場の現状把握力、責任者へのレポート能力、新たな事柄の発見能力を高めることが求められています。SQL Server は、ミッションクリティカルを託せる信頼性、Big Data 対応のビジネスインテリジェンス、アプライアンスからクラウドまで単一アーキテクチャの 3 つのコンセプトを軸に開発されています。

これを情報共有基盤である SharePoint Server と組み合わせて活用することにより、医療従事者が欲しい情報を適切な粒度で得ることが可能になります。

今回は、チーム医療を効率的に支え、「高密度な医療」を推進し、医療安全を側面から支援する目的でシステム構築をされた鳥取県立中央病院様より、自治体立病院として予算が限られる中、院内の要望をまとめるために工夫されたこと、現在の活用状況と将来展望などをご紹介します。

ランチョンセミナー 1 1

共催：アライドテレシス株式会社

日 時：11 月 16 日(金) 12 時 20 分～13 時 20 分

会 場：H 会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ウェーブマーケット特設 3)

座 長：遠藤 晃北海道大学病院 医療情報企画部部長／准教授

演題名：病院情報システムの仮想化とクラウド時代のネットワーク

及びコンピュータルームのアプローチ

Experience of the virtualization of the hospital information system and approach of the network for the cloud and the computer room

演 者：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部 副部長／准教授、
総合情報基盤センター 副センター長、情報セキュリティ部門長）

医療情報の ICT は拡大し、情報利用の重要性は増大している。このため、いつでも・どこでも利用できる情報空間が求められている。病院情報システムに仮想化を適用することで、利用方法が大きく変化し、医療情報のユビキタス環境での利用が可能となる。仮想化に代表されるクラウド技術は、情報システムの構築の自由度を拡大するとともに、モバイルなどの利用も拡大できる。通信量の変化に伴いネットワークについてもアプローチが異なる。

また、サーバ集約に伴い、コンピュータルームについても従来と違ったアプローチで集約が可能となる。

病院情報システムの仮想化によって何が変わりどのような効果があり、また、情報システム環境としてのネットワークやコンピュータルームの新しい試みについて紹介する。